

企画提案書

団体名：NPO法人POPOLO

1 プロジェクト名

子ども未来応援プロジェクト！！

2 プロジェクトの概要 (市民ニーズや当制度を活用する意義を踏まえて記載してください。)

子どもの貧困は大人の貧困です。

子どもを含めた世帯全体を支援できるように、下記の取組みを行います。

対象地域 静岡県内全域 (主に静岡市を中心とした中部地区で実施)

- ①若い世帯からの相談が来やすいように、LINEを活用したAIチャットボットの開発
24時間365日 いま困っていることの支援制度案内や相談機関の紹介など
ナビゲーション機能を搭載し、相談が日頃来にくい年代である若い世帯からの相談に対応
SNSで特定のフレーズに対して、チャットボットの利用を促すメッセージを自動返信
例 派遣切りにあった 家が無い お金がないなどのフレーズに反応させる。
- ②県内の自治体や県内の生活困窮者自立支援事業の受託者、地域のNPO等と連携し、
夏休みや冬休みの給食が無くなる時期に合わせ、食料や日用品の配布企画等を行い、
子どもを抱える世帯に十分な食料や、日用品を提供します。
- ③配送を相談援助の専門家(社会福祉士や、相談援助歴が長い支援員)が行うことで、顔と顔を合わせる関係での声掛け等で「課題」や「困っていること」を気づくことが可能になり、相談内容に応じて支援をおこなったり、行政機関や地域で取り組んでいる様々な支援へつなぎます。
- ④地域の企業や、地域の市民、フードバンク団体から食品や日用品の提供を募る依頼活動を通じて、
地域の子どもの貧困への理解を促し、地域全体で支える風土を醸成する

3 取り組みたい社会的課題

日本のおよそ7人に1人の子どもが貧困状態とされています。

※厚生労働省「平成28年 国民基礎調査/貧困率の状況」より

また、生活保護受給世帯のうち、過去に生活保護世帯で育った経験があるのは25.1%だったことが判明し、貧困は連鎖する可能性が高いことが示されました。

(関西国際大学 道中隆教授平成18年抽出調査)

生活困窮世帯に生まれた子どもは、

- ・学校給食がなくなると、満足に食事が取れない(お腹いっぱい食べられない)
- ・修学旅行や部活に金銭面の問題で参加できない(仲間との思い出が作れない)
- ・進学を諦めて就職する(学びたいという想いをかなえることが出来ない)

というギリギリの状況の中で暮らしています。

NPO法人POPOLOは、生まれ育った環境で、夢を諦めていってしまう子どもたちを、少しでも明るい未来へ導きたい。そんな想いでこのプロジェクトを立ち上げました。

子どもの貧困は大人の貧困でもある為、子どもを育てる親の支援も考える必要があります。

団体名：NPO法人POPOLO

4 事業計画・実施スケジュール

2021年4月～12月 事業周知の広報活動（静岡市を中心とした県内全域）および、
地域の企業・市民等への協力依頼の実施

2021年6月～12月 LINEチャットボットの運用開始（必要に応じて支援を実施）

2021年7月～8月 夏休み食料・日用品配布事業の実施

2021年12月 冬休み食料・日用品配布事業の実施

2021年12月～2022年1月 事業報告の作成および事業完了

5 法人としての活動概要

NPO法人POPOLOはホームレスや派遣切りなど様々な理由で生活に困窮している方々へ相談・生活支援を行い、行政や、社会福祉協議会等と連携し、自立援助を2010年より行っています。

具体的には下記の事業を行っています。

- ①住居をなくしたかたを対象とした、緊急一時宿泊シェルターの運営（年間約130名利用）
- ②就労に不安がある、続かないかたを対象とした、中間的就労事業（年間約15名利用）
- ③生活困窮者を対象とした、食料を提供するフードバンク活動（年間約500件）
- ④子供を抱える若い世帯への相談掘り起しを目的とした「子ども応援プロジェクト」（約150件）
- ⑤対面相談ができない方へのアウトリーチを目的とした、チャットボットによる24時間365日相談
- ⑥障がい者の就労支援のための、就労移行支援事業・就労継続支援B型事業所の運営（利用者15名）
- ⑦刑務所を出所した方の更生保護事業（自立準備ホームの運営）（年間利用者約10名）

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、効果など）

【 専門性 】

支援に必要なスキル（国家資格）を持つ職員がいます

- ① 社会福祉士 3名
- ② 2級キャリアコンサルティング技能士 2名
- ③ キャリアコンサルタント 2名
- ④ 行政書士 1名

【独自性・先駆性】

相談にLINEを活用してということは、全国でも事例がありますが、AIチャットボットで、さまざまな支援制度にだれとも会わずにつながることができるというのは全国初の試みです。

【 実績 】

①メディア出演

- ・全国版・静岡県内版 メディア出演多数
- ・全国放送 NHK ハートネットTV 2回出演
- ・NHK クローズアップ現代、NHKスペシャルに出演

②国および県内の検討委員に専門家として参加

- ・消費者庁 食品ロス削減推進法 検討委員
- ・島田市地域福祉計画策定委員
- ・島田市地域福祉活動計画策定委員
- ・静岡市地域福祉活動計画検討委員（任期満了）

③困窮者支援のエキスパート

- ・静岡県内12市と生活困窮者自立支援法の自立相談窓口および一時生活支援事業を受託

【 効果 】

- ・本申請内容と重なる部分が多い事業が約100万～約4500万集まるなど市民の期待を集めやすい
- ・子どもたちに直接支援物資が届くことから、市民の想いが届けられやすい

7 目標金額

5,943,000円

積算書

特定非営利活動法人 POPOLO

収入			5943 千円
	科目	内容・数量	金額
ふるさと寄附金			5943 千円
合 計			5943 千円

支出			5943 千円
	科目	内容・数量	金額
管 理 費	間接費	全体予算の8%を計上 (千年単位まで切り上げ)	440 千円
事 業 費	人件費	9ヶ月×250,000円(福祉に精通した人材を雇用)	2,250 千円
	賃料	駐車場1台×8000円×7ヶ月 家賃 80000円×7ヶ月	56 千円 560 千円
	光熱費	光熱費 7ヶ月×10000円	70 千円
	消耗品費(文具等含む)	7ヶ月×20,000円	140 千円
	チャットボット開発	LINE チャットボット一式	800 千円
	広報費	SNS 広告を中心に設定	1000 千円
	印刷製本費	チラシ・カード 5000 枚	100 千円
	旅費交通費	7ヶ月×20000円	140 千円
	通信費(郵送費含む)	7ヶ月×40000円	280 千円
	備品費	パソコン1台	100 千円
	雑費	7ヶ月×1000円	7 千円
そ の 他			0 千円
合 計			5943 千円